

一 緒言

吾が日本労働組合総聯合の承る可き一ヶ年の行動方針は内外の資本主義の猜疑なる分折と従来の労働運動の厳正なる批判と清算の上に立脚して誤らざる戰略と戰術を樹立するにある。

二 世界資本主義の現勢

(1)
吾が大戰を転期として、浸透過程を進め、戦後数年に亘る直接的革命の危機を経て、戦後の資本主義は相対的安定化の第二期に入り、戦争に依つて破壊された經濟は漸時に恢復し、生産は戦前の水準を突破して、資本主義は表面再び發展への上向線を描くが如くに見ゆるが、その陰には、無限に増大する生産力と一定限度に制約される消費力との矛盾は生産過剰の危機を刻々に孕みつつある。此の潜在し、内蔵しつゝあつた、生産過剰の矛盾は一九二九年の秋『永久繁栄を誇つた』アメリカ合衆國に恐慌の大蓋は切られ世界經濟の半を白める。アメリカの恐慌は必然的に世界の致命的恐慌へと導く一九三〇年の下半期に於ける。